

経営探訪

management report

ノリット・
ジャポン
株式会社代表取締役
菅原 久典
Hisanori Sugawara

「秋田の食」の未来を変えたい

秋田をはじめとする地方の食の魅力をPRしようと「地方を広告する」とコンセプトを掲げてノリット・ジャポンを起業したのは平成21年。現在は、秋田県産品販売サイトの運営、飲食店経営、食品開発・販売、食品パッケージのデザインやウェブサイトの制作など、「食」に軸を置いてさまざまな事業を展開している。

秋田県産食材を加工した自社食品ブランド「UMAMY」シリーズの商品。手軽に「秋田の恵み」を料理に加えられる調味料や、袋麺の「比内地鶏白湯ラーメン」などがある。



新規事業に次々挑戦

「県外の人に『食べものおいしい都道府県は?』と聞くと、必ずと言っていいほど挙がるのが、北海道や福岡県。この現状が悔しくて仕方がない。真っ先に秋田県を挙げる人が増えるように、もっともっと努力しなければいけない」と、自らに言い聞かせるように話す「ノリット・ジャポン」の菅原久典社長。

創業以来、怒涛の勢いで新規事業に挑んでいる。26年には、自社の食品ブランド「UMAMY(ウマミー)」を立ち上げた。きっかけは、お客様から依頼を受けてネット販売や販売促進を担うにあたり、「自分たちで商品を作って売ってみないと気がつかないこともあるだろう」と考えたから。実体験で得た知識をお客様へのアドバイスに活かしている。

27年1月には秋田市の繁華街、川反に肉料理の店「肉

バルNORICHANG」をオープン。さらに同年4月には、後継者がいないために稼働を停止していた「雄和トルケーゼ組合」(秋田市雄和)の経営を継承し、チーズやアイスクリーム、ソフトクリームなどの製造を始めた。加工に使う牛乳は主に秋田市河辺産。朝に搾乳した新鮮な生乳をその日のうちに加工する。ソフトクリームはOEMで、県内15カ所から依頼を受けて業務用ミックス(ソフトクリームの素)を製造している。

「秋田の食」の未来に危機感

生家は、潟上市にある醤油・味噌の醸造元。物心ついたときから商売が身近にあり、「配達に行くとお客様が喜んで待っていてくれる。商売って面白そうだなと興味を持った」と幼少期を振り返る。商売への憧れは膨らみ、高校時代には既に、将来は経営者になろうと考えていた。

大学進学で東京へ。ふるさとを離れて秋田の食の素晴らしさに気がついた。「東京の友人たちが、きりたんぼを食べて喜ぶ様子や、秋田に来て朝食のご飯のおいしさに感動している表情を見て、今まで何気なく食べていた食の素晴らしさに心を打たれた」。もともと食べることが好きで、「食」そのものや、農家・料理人の姿勢にも関心があった。

高校時代の同級生だった伊藤俊樹さん(ノリット・ジャポン専務)とは食に関する思いや考え方が似ていて、会うたびに食の話題で話が弾んだ。大学卒業後、都内の金融関連企業への就職を経て、伊藤専務とともにノリット・ジャポンを立ち上げた。

“秋田の食”を売り込む中、「秋田は環境が良い、生産者の腕も良い。食文化も豊か。秋田の食は可能性に満ちている」と強く感じる一方で「秋田の食は、このままではダメだ」と危機感も感じている。「食品製造業の年間出荷額は、全国で下から4番目。食材の産地でありながら、食品の加工や、加工食品の販売の分野では非常に弱い。また、農家の後継者不足も深刻。秋田の食の未来を考えると、いま自分たちが動くべきことは山ほどある」。農家、加工業者、販売業者の連携を訴えながら、自ら積極的に前に出て行動する。「地域、農家、加工先など、点と点を繋げ、面にして売り込むことが使命。しかし、まだ努力不足。

もっと積極的にリスクをとっていきたい」と自らに厳しい。

さらなる構想を練って

新規事業を次々手掛けているが、前に出ることやリスクに対して怖さはないのだろうか。「今まで成功、失敗いろいろあったが、怖さはない。なぜならスタッフや周りの方々に恵まれているから。自分は“人運”だけはいいと思う」と話して笑う。現在、飲食店や工場を合わせてスタッフは30名。「飲食店マネージャーとして右に出る者はいない」と高く評価する「肉バルNORICHANG」の中野雅人マネージャーをはじめ、飲食、食品加工、セールス、デザイン、ウェブなど、各分野の精鋭がノリット・ジャポンを支えている。

11月には、秋田市大町の「すずらん通り」に新たに魚料理の店を構える。また、秋田県産品通販サイト「秋田ずらり」の経験を活かして「山形ずらり」をスタート予定。かつて日本海航路で上方と蝦夷地を結んだ北前船にちなみ、北前船が寄港した各県にて「ずらり」のサイトを展開する構想もある。さらにソフトクリーム事業の海外進出も検討中。「食に関して、やりたいこと、やらなければいけないことは、まだまだたくさんある」と意欲を見せる。



- A** 「肉バルNORICHANG」。さっぱりとした赤身肉の「かづの短角牛」や、ブランド豚「八幡平ポーク」など、秋田県産の肉の料理が充実している。
- B** ノリット・ジャポンを支える社長自慢のスタッフ。
- C** 秋田県の特産品が豊富にそろうインターネットショップ「秋田ずらり」。
- D** この「UMAMYキッチンカー」で各種イベントに積極的に出店。
- E** 自社で製造している「UMAMYアイスクリーム」。

ノリット・ジャポン株式会社

〒010-0061 秋田市卸町1丁目3-2 秋ト協ビル1階
TEL.018-874-7547
FAX.018-874-7548

- 設立 / 平成21年
- 資本金 / 500万円
- 従業員数 / 30人
- 事業内容 / 自社流通事業、販促支援事業、商品開発・調査マーケティング支援事業、自社ブランド開発事業